# 技術者の立ち上がり方

日本原子力研究開発機構　岡嶋成晃

平成２５年度を振り返ってみると、夏頃に「倍返し」が流行した他に、小説や映画において戦闘機零戦とその設計者が話題となった。そこで、そのベストセラーでも読もうかと本屋に出かけ、書棚を見ていると、文庫本サイズではあるが、タイトル「技術者たちの敗戦」（草思社文庫、2013 年発行）が目に飛び込み、早速、それを買って読み出した。そこには、航空分野、鉄道分野、造船分野、電気・通信分野、内燃機関分野の 5 分野において、それぞれ中心となる技術者（航空分野では 2 人）とその周辺の技術者たちが、敗戦直後のゼロからの再出発において先頭に立ち、様々な障害や困難な時代状況を乗り越えて、まさに「技術大国日本」の礎を築き上げてきた不屈の姿勢や行動規範が紹介されていた。彼等は、戦前からの技術者であって、技術開発の観点から大きな目標／目的を有し、その達成に向けて日夜努力し、傾注してきた。ところが、敗戦によって、その大きな目標／目的が悉く消失した。さらに、それらの技術開発を継続することができない状況であった。このような状況下であっても、彼等は悲観的ではなく、むしろ正反対に努力を積み重ね、敗戦の逆境をはねのけ、そして戦後 20～30 年の後に一時代を作り上げた。非常にエネルギッシュな人物達である。

自分自身と照らし合わせてみると、大震災による原子力発電所事故が、敗戦と重なるように思える。事故が大きな転機をもたらしたとはいえ、敗戦直後の技術者に比べると、その程度は小さいと感じた。読み進むにつれ、彼らの状況に比べたら・・・という気持ちがより一層強まると共に、どのような状況であっても、技術者としての使命と誇りはかくあるべしと、頭を叩かれ、叱咤激励されているように思えた。戦後に一時代を築いた彼等のみならず、その周囲の技術者も含め、確実に共通の未来像を見据えつつ、これまで以上の情熱と信念を抱いて、敗戦直後からエネルギッシュに、しかしがむしゃらに進むのでなく、一歩ずつ確実に歩み出した。まさに、「不足は知恵と労力で補えばよい。大事なのは、やろうという強い想い、意志である。やろうと思えば、大抵できる。（本田宗一郎氏）」を地でいくかのように。

いま、30 年後あるいは 50 年後の未来に向けて、自分は何を行うべきなのか？　今一度、これを考えて、エネルギッシュに進んでいこうと思う。今まで育んで頂いた分野の先達に「倍返し」で、お礼するためにも・・・。